

【一口のパンに豊かさを隠しておられる神様】

聖書:第一列王記 17;8-16/暗唱聖句:マタイの福音書17:20

説教:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

神様は小さいことをとおして我々を成長させてくださいます。ちいさい事をとおして神様は働かれます。エリヤは旧約時代の預言者の中でも大物です。しかし、彼の出発はとっても小さかったです。神様がエリヤを大いに用いるためにもって小さなことから彼を成長させてくださいました。これは神様の原則です。エリヤの話はある意味我々の話のようです。特にエリヤが出会ったツアレファテのやもめの話は我々の現実と密接な関係があります。ツアレファテのやもめがエリヤにもてなした小さいパン一つの話はとっても有名です。この出来事の中から我々は宝のような神様の原則を見出すことができます。

今日本文の御言葉をみると神様はエリヤにツアレファテに行くように命じられます。ツアレファテのやもめが彼をもてなすと言われます。神様はエリヤに食べることの課題とおして神様を経験させます。ツアレファテに来る前はケリテ川に身を隠していた時何度ものからすを通して運ばれたパンと肉、ツアレファテのやもめが作ってくれた小さいパン一つとおして神様の御手を経験されます。その過程をおして彼はゆっくりと大預言者として成長していきます。一番危険なのはあせる心です。低いところから高いところに、小さいことから大きいことに、弱いものから強いものに進ませてくださることを覚えなければなりません。

1.<神様は貧しさを用いて祝福されます。>

エリヤは貧しいです。持っているものがありません。神様は彼の貧しさを用いて彼を祝福されます。エリヤだけではなく神様の命令によってたずねたところのツアレファテのやもめにまで祝福をしてくださっています。しかし、今日エリヤが神様の命令でたずねたツアレファテのやもめは悲しみの多い女でした。食べ物もありません。崖(がけ)の頂にまで来ています。ツアレファテのやもめはかめに残っている最後の握りの粉とつぼにほんの少ししか残ってない最後の油で食べ物を作って食べて息子と死のうとしていたのです。人間的な面で見るとツアレファテのやもめのようにみじめな女はいないと思います。人生の最後を迎えています。もうすべてが終わったと思うその瞬間です。その時あらわされるのがエリヤです。(8-12) 神様は彼女にエリヤを送ります。神様は我々の人生の崖(がけ)の頂から働かれます。がけの頂に立っている我々にたずねてくださいます。神様は我々の貧しさと困った状況を用いられます。我々の問題を用いられます。

2.<希望の糸口(いとぐち)-わずかな信仰とそしてその信仰は選択と従順で検証される!>(1)告白を通して表れる信仰

ツアレファテのやもめは異邦の女でした。しかし、この女から見出される希望の糸口があります。それはこの女の信仰です。女は神様を知っていました。神様の人であるエリヤを見分けたのです。12節で彼女は“あなたの神、主は生きておられます。”と言っています。ツアレファテのやもめにはほかの人が持ってないものが一つありました。それは神様を知る知識がありました。神様はこの女の中にある信仰があることをご覧になったのです。この女のくちびるの告白をおして彼女の信仰を推し量ることができます。いったいなぜ神様は多くのやもめのなかで人生の崖の頂に立っているツアレファテのやもめを選んだのでしょうか。特にイスラエルに住んでいるやもめらも多いたと思うのに、なぜ異邦の女だったツアレファテのやもめを選んだのでしょうか。それは彼女が持っていた信仰のためでした。

ルカの福音書4章でイエス様はイエス様を信じない故郷の人々を見ながら心を痛まれました。そうしながらこのツアレファテのやもめの話がされます。“わたしが言うのは真実のことです。エリヤの時代に、三年六ヶ月の間天が閉じて、全国に大ききんが起ったとき、イスラエルにもやもめが多いたが、エリヤはだれのところにも遣わされず、シドンのサレプタにいたやもめ女にだけ遣わされたのです。”(ルカの福音書4:25-26)

この御言葉の意味はイスラエルの民たちは神様の民だったのにもかかわらず、信仰がなかったのに、むしろ異邦の人だったツアレファテのやもめは神様を信じる信仰を持っていた事実を強調されています。

われわれにからし種ほどの小さい信仰さえあれば、貧しさも絶望もいくらでも逆転することができます。貧しさがかえって神様の奇跡を経験するチャンスとなれます。ツアレファテのやもめに信仰があったという事実は彼女のくちびるの告白をおしてまず知ることができます。

(2)信仰は優先順位を選択を通して表されます。

しかしここでとどまらず、13節をよく読んでみると、神様はエリヤをおしてツアレファテのやもめの告白がまことの信仰なのかためしています。愛するみなさん! 我々の信仰が神様にむかって絶対信仰なのか、そうでないのか知る方法があります。それはいまの自分の優先順位を選択をみればあきらかにわかります。

”エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行ってあなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。」

ここでよく見る単語は“まず”で、次の単語は“それから後に”という単語です。

人生において大切なのは選択であって、その中でも優先順位を立ててその優先順位のどおりに生きることは我々の人生を左右(さゆう)するほど大切なことです。神様はツアレファテのやもめに優先順位においての選択を要求しています。神様の御言葉を信じ、神様の命令に従って神様の預言者をさきにもてなすべきなのか、さきに自分が食べるべきなのか。

“神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”

(マタイの福音書6:33)

ツアレファテのやもめはちいさいパンでもありますが、まずエリヤのために最後のパンを作ってもなしました。その結果3年6ヶ月を豊かに食べ、生きることができました。

(3) 従順を通して表される信仰

15節で特に、“彼女は行ってエリヤのことばのとおりにした。”聖書にはエリヤの言葉だと書かれていますが、それはつまりエリヤが伝えた神様の御言葉にもとづいて従ったという意味を含んでいます。信仰はくちびるの告白をとおして表されます。そして御言葉に従うことによって表されます。そして信仰は聞くことによって成長します。

実際エリヤとツアレファテのやもめの共通点は二人とも信仰の従順があったということです。

みなさん、実際従順ほど難しいこともなく、従順ほどよいものもありません。信仰による従順、御言葉のどおりに従順することは信仰の最高の表しです。エリヤもたいした従順ではありませんか。残りのパン一口を食べて死のうとしているやめめにそのパンさえも自分にくれと命じる時エリヤにもそれはとつても言いづらかったのではないのでしょうか。しかし、神様が命じられたことだったのでエリヤは従います。ツアレファテのやもめの従順もやはり大変なことだったでしょう。しかし、ツアレファテのやもめも小さいパンだったとしても、自分と自分の息子のいのちが込められているそのパンをエリヤの言葉でもありましたが、神様からの言葉として信じてささげました。自分たちで食べてしまったのであれば、それですべてが終わってしまったのに、ツアレファテのやもめはいのちを神様にゆだねました。するとのちに命まで守られたのみならず、3年6ヶ月の間もかめの粉が尽きることもなく、つぼの油もなくなることがない祝福をいただいたのです。

“あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うので、次のすべての祝福があなたに臨み、あなたは祝福される。あなたは、町にあって祝福され、野にあって祝福される。あなたの身から生まれる者も、地の産物も、家畜の生むもの、群れのうちの子牛も、群れのうちの雌羊も祝福される。あなたのかごも、こね鉢も祝福される。あなたは、入る時も祝福され、出て行くときにも祝福される。”(申命記28:2-6)

神様の約束を信じてエリヤもツアレファテのやもめも信仰によって従ったとき、ツアレファテのやもめの家庭が祝福され、後にはエリヤをとおして死んだ息子まで生きかえらされる奇跡までみることもできたのです。

ツアレファテのやもめはエリヤをとおして神様の御言葉を聞きました。神様はパン一切れでもまず神様の人をもてなせば飢きんが終わるまでかめの粉とつぼの油を満たしてくださると約束されました。神様の御言葉に約束が含まれています。希望が含まれています。大切なのは環境をみないで約束の御言葉をつかむことです。さきが見えないときにこそ神様を待ち望むのです。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん! 経済的に大変だ。生きるのが苦しいと落胆しないでください。自分の力では乗り越えられない、解決できなさそうなやみがあるといってすべてが終わったかのように思われる時でも神様を見上げてください。神様が終わったと言われる前までは終わったのでありません。ツアレファテのやもめはほかのやもめたちが持っていない信仰と従順を持っていました。それがすべてを変えました。だからこそ信仰が大切です。神様を信じる者になってください。

3. <神様は我々が持っている小さいものをとおして問題を解決してください。>

神様が我々の問題を解決してくださる時間問われる質問があります。“あなたの手にあるのはなにか?”“あなたが持っているものはなにか?”“あなたにまだ残っているのはなにか?”

エリヤが彼女に始めにお願いしたのは水です。始めにお願いしたのは現実的に可能なことでした。(10節-“水差しにほんの少しの水を持ってきて、私に飲ませてください。”)。たくさんでもなくほんの少しの水を飲ませてくれるようにと頼んでいます。神様は我々になにかを求めるとき我々ができないことをお願いされるのではなくできることを求められます。

ツアレファテのやもめが水を持ってきたときふたたびエリヤが彼女を呼びます。そして次は一口のパンをお願いします。“一口のパンも持って来てください。”(第一列王記17:11)たくさんものを要求するではありません。“一口のパン”です。それも実際ツアレファテのやもめにあるものです。しかし、もちろん可能ではありますが、困らせるお願いだったのです。なぜならその一口のパンは彼女が持っていた全部だったからです。

そして、ツアレファテのやもめはさらに死という問題に直面していました。それに夫を失った悲しみ、心の痛みもあるのに、のちには愛する息子まで失われるかもしれない状況におかれてしまいます。自分が死ぬことよりつらいのは自分の息子が死ぬことでした。神様はどうやって彼女の問題を解決してくださいましたか?今彼女にあるものをとおして解決してくださいました。それは彼女を訪ねてきているエリヤがいるのではありませんか。神様はそのエリヤをとおして解決してくださいましたのです。なにか問題にぶつかった時、まず我々が持っているもの、いまも残っているのはなにであるかを点検してみましょう。そして自分たちの近くにだれがいるのかを考えて見ましょう。神様は我々が持っているもの、我々の近くにいる人々をとおして問題を解決してくださることを喜んでくださいます。

愛する信仰の家族のみなさん、ここで我々が覚えるべき事実は神様はわれらが持っているものを通してわれらの問題を解決してくださるということです。我々が持っているものとおして我々を祝福しようとしておられます。大きかろうがちいさかろうが、たくさんであろうが、すくないであろうがそれは問題になりません。大切なのは我々は神様によってなにかを持っているということです。小さいからといって自分にはなにもないと言わないでください。小さいですが、あると言って下さい。

なぜなら神様は我々が与えられたと言うもの、まだ自分たちに残っていると言うものとおして我々を豊かにさせるからです。

“持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。

(マタイの福音書13:12)

自分の持っているものを数える時、ほかの人のものではなく、自分にあるものが大切であることをおぼえてください。そしてほかの人が持っていないにかを自分は持っていることを覚えてください。自分にあるからたいしたものではないように見えるかもしれませんが、ほかの人には決してないものがかならずあります。

ツアレファテのやもめが持っていたかめの粉とつぼの油はほんのわずかでした。ほかの人と比べたらとつてもくらべられないほど小さいものでした。しかし彼女にもほかの人がもってない大切なものを持っていました。それは信仰でした。この女はシドン人です。異邦の女です。そういうわけで自分の持っていた信仰がどれほど大切なものなのか知りませんでした。自分の信仰をからしの種ほどのちいさいものだと思ったかも知れません。しかし、その信仰を用いた時、彼女の目の前で驚くばかりの奇跡が起こりました。我々を豊かにさせるのは信仰です。我々の人生を逆転させるのは信仰です。我々の前に置かれている巨大な障害物を取り除くのも結局信仰です。からしだねほどの信仰を蒔いた時、我々の信仰はますます大きく実(みの)ります。

“イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に、『ここから、あそこに移れ』と言えば移るのです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。”(マタイの福音書17:20)

韓国の小児麻痺障害者であり、詩人であるソンミョンヒさんの“わたし”という詩を読むたびに公平なる神様についてもう一度告白せざるを得ません。

“わたし、持っているお金ないが、
わたし、ほかの人が持っている知識ないが、
わたし、人にはある健康ないが、わたし、人にもないものがある。
わたし、人がみれないものを見、人が聞いてない御声を聞いて、
わたし、人がもらってない愛をいただき、人が知らない悟りが与えられた。
公平なる神様が、ほかの人が持っているもの私にはないが、
公平なる神様が、ほかの人がもってないもの私にくださったのだ。”

愛する信仰の家族のみなさん! いったいなぜ神様はエリヤをツアレファテのやもめの家に導いたのでしょうか?

エリヤにとってツアレファテは神様の訓練の場所でした。ツアレファテという意味は“溶鉱炉(ようこうろ)、精錬”という意味です。神様はエリヤをツアレファテに連れて来て信仰をためし、訓練させました。エリヤは神様をもっと経験されます。ツアレファテのやもめの家で起こった奇跡をみながら神様の御力を確信するようになります。神様を信じ、神様の命令に従ったとき、3年6ヶ月の飢きんの間、食べ物が尽きず、それだけではなく、彼女の死んだ息子をも生き返らせることによりまことに生きておられる全能なる神様を彼自身が経験するようになります。その後、整えられたエリヤを神様は歴史に表せ、彼を尊く用いられます。カルメル山で偶像礼拝者たちとの850対1の大戦いの中でも勝てるほどの偉大な預言者として立たせてくださったのです。

愛する信仰の家族のみなさん! 自分たちがまいた信仰の種がいますぐ結果がでない嘆(なげ)かないでください。時には小さい種をまいた、長らく待たなければなりません。エリヤは歴史の舞台に立たせるまで長い間、訓練されながら待ちました。ちいさい信仰だと、小さい信仰の種をまいたと恥ずかしがらないでください。ちいさいパン一口だけ残ったと挫折しないでください。その結果はただ神様のみがご存知です。

<結論>

メッセージをまとめます。小さいものを大切にしてください。イエス様はベツレヘムで生まれました。ベツレヘムの意味はパンを焼くところという意味です。イエス様はパンを焼くところで生まれた命のパンです。イエス様はいのちのパンを我々に与えて下さいました。ご自分の命を与えて下さったのです。きょうツアレファテのやもめがエリヤに与えたパンが自分と自分の息子のいのちがふくまれたパンのようになります。イエス様が十字架でご自分の命をさげたまのいのちのパンでした。聖書にイエスを信じていのちのパンを食べる者は永遠のいのちを得、永遠にかわくことがないと約束されました。

ですから信仰の家族のみなさん!

いまの自分の足りなさやなやみになる問題のためあまり苦しまないでください。ツアレファテのやもめの小さい信仰と小さい従順をご覧になって、からつぼのかめとからつぼのつぼに神様は豊かな祝福を注いで下さいました。決して落胆しないでください。いまみなさんが持っているもの、残っているものを神様に蒔いてください。神様にゆだねて見て下さい。神様のためにさげたまてみてください。神様は我々のがけのいただきから働かれます。まだ結論をだすのは早すぎます。神様が終わったと言われる前までは終わったではありません。神様を信頼する者は決してはずかしめられることはされません。神様を信じてその御言葉に従う人の未来は明るくて豊かです。この祝福をわれわれみな経験されますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!